

特集：医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育

フィジカルアセスメント実践能力育成に向けた ポッドキャスト教材

末次 典恵*, 大喜 雅文**

e-Learning Podcast for Training Practical Skills of Physical Assessment

Norie SUETSUGU*, Masafumi OHKI**

1. はじめに

「フィジカルアセスメント」とは、対象者の全身状態を的確に把握するために、健康歴の聴取を含めて、視診・触診・打診・聴診のあらゆる技術を用いて行う身体査定である。アメリカでは 1970 年代に大学・大学院での看護教育に取り入れられてきたが、わが国では 1996 年に初めて大学教育に導入された⁽¹⁾。看護実践の基本には的確な身体観察が必須であり、「フィジカルアセスメント技術」は、平成 21 年度の看護教育カリキュラム改正から看護師に欠かせない能力として強調された。しかし、看護基礎教育における「フィジカルアセスメント」の教育内容や方法は各教育機関によりさまざまである。加えて、教育機関で実施する演習は健康な学生を観察対象として行われ、病院や在宅での臨地実習では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮、医療安全確保のための取り組みの強化などに関連して学生が経験できる技術範囲や機会が限定されており、対象の身体観察技術を十分に習得できる状況にはない。卒業後の新人看護職者が社会的要請に応え、対象に応じたケアを実施できる看護実践能力を育成するためには、基礎教育の段階で臨床現場に即したフィジカルアセスメント教育の充実が必須である。看護技術は繰り返し実施することで身につくものであり、習得のために自己学習を要する。近年、スマートフォンをはじめとする携帯情報端末の普及に伴い、時間を有意義に使えるモバイル学習へのニーズが高まっており、語学学習などにポッドキャスト

(Podcast) 形式の教材⁽²⁾ が用いられている。このような携帯情報端末を用いて学習できる看護学教材はいまだ少なく、ポッドキャスト形式のものもわが国では例がない。本研究では、臨床現場の実践状況調査に基づいて、基本的なフィジカルアセスメント技術の習得を目指した「フィジカルアセスメント技術」教材をポッドキャスト形式で開発し、その評価を行った。

2. フィジカルアセスメント技術実践状況調査

2.1 フィジカルアセスメント技術項目の抽出

公刊されている看護学のテキスト^{(3)~(8)} および、論文⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾ に記されている内容から、共通する技術項目を抽出し、表 1 に示す看護職者および看護学生を対象にアンケート調査を行う 50 項目のフィジカルアセスメント技術を決定した。

2.2 臨床現場における実践状況調査

臨床現場において、実施頻度が高い項目と、重要度が高いにもかかわらず行われていない項目を明確にするために、抽出した 50 項目のフィジカルアセスメント技術についての実践状況を調査した。

2.2.1 臨床看護職者を対象とした調査

(1) 方法

2011 年 8 月に A 県看護協会 フィジカルアセスメント研修受講者 134 名を対象に、50 項目のフィジカルアセスメント技術に関するアンケート調査を実施した。調査内容は、臨床における実施頻度および、

* 佐賀大学医学部看護学科 (Department of Nursing, Faculty of Medicine, Saga University)

** 九州大学大学院医学研究院保健学部 (Department of Health Sciences, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University)

受付日：2013 年 5 月 2 日；再受付日：2013 年 7 月 23 日；採録日：2013 年 8 月 13 日